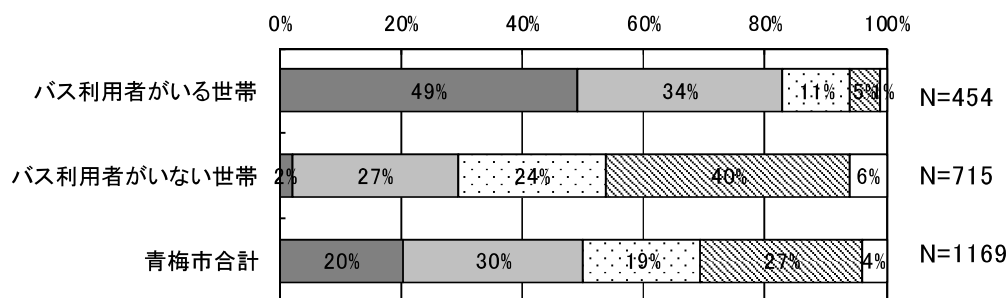


5 路線バスの今後の確保維持に関する市民の意向(Q4)

(1) バス路線に対して市民は必要性を感じているのか

- バス利用者がある世帯は「日常生活で必要」や「たまに必要」という回答が多いが、バス利用者がない世帯は「必要な人に必要」「将来必要」「たまに必要」が多くなっている。

図 路線バスの必要性

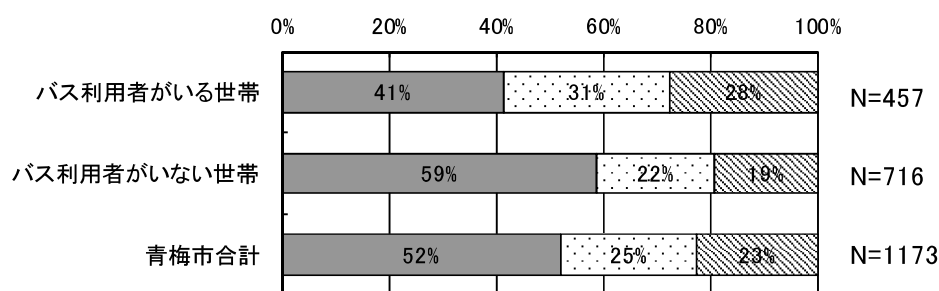


- 家族の日常生活には、なくてはならない交通手段である
- 普段は利用していないが、たまに必要ときがないと困る
- 現在は必要ないが、将来クルマを運転できなくなったときがないと困る
- 自分の世帯には直接必要ないが、駅から遠い人やクルマのない人には必要である
- あまり必要性を感じない

(2) 公共負担に関してどの程度知られているのか

- バス利用者がある世帯は、バス利用者がない世帯より、路線バスの赤字や公共負担に関して認識している割合が高い。

図 公共負担に関する認知度



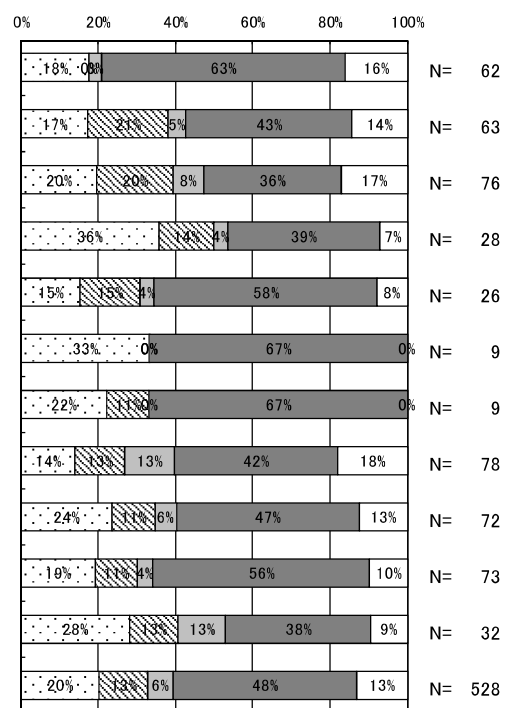
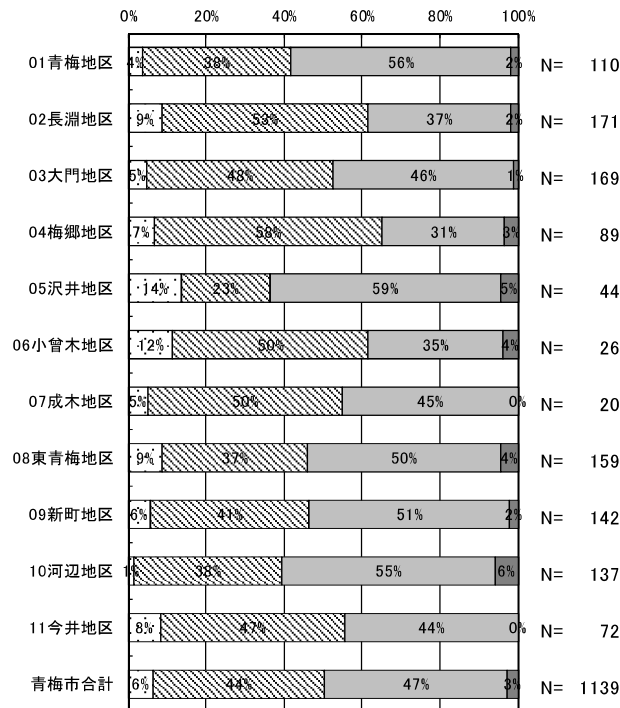
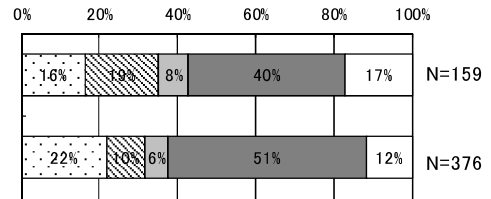
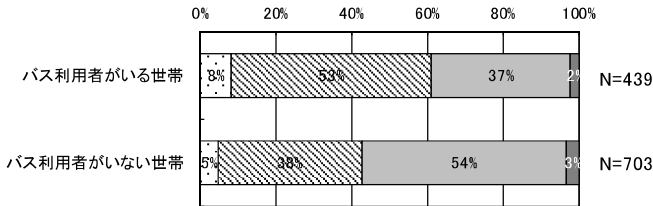
- 知らなかった
- 路線バスの赤字は知っているが、赤字への補助は知らなかった
- 知っていた

(3) 公共負担に関して市民はどうしていきべきと考えているか

- バス利用者がある世帯では「現状維持」が53%、バス利用者がいない世帯では「現在より減らすべき」が54%と、バス利用世帯と非利用世帯で違いが見られる。

図 公共負担についてどのように思うか

図 公共負担を減らすためにどうしたらよいか



- さらに公共負担を増やし、路線バスを改善していきべき
- 公共負担をこのまま継続して、路線バスを維持していきべき
- 公共負担は必要だが、現在の補助額は高いと思うので、減らすべき
- 路線バスへの赤字補助は必要ない、廃止となってもやむを得ない

- 運行本数を減らすなどして、運行経費を削減する
- バス利用者を増やすなどして、運賃収入を増やす
- 運賃を値上げして、運賃収入を増やす
- 路線バスよりも、公共負担の小さい交通手段や方法に切り替える
- その他

(4) 必要最低限のバスサービスレベルはどの程度か

- バス利用者がいる世帯では「1時間に2本程度」の割合が高いが、バス利用者がいない世帯では「1時間に1本程度」の割合が高い。

図 必要最低限のバスサービスレベル

